

(実践報告)

在宅看護実習における学生の学び ー テキストマイニングツールによる実習レポートの分析より ー

村山晃子¹⁾ 榊原千佐子¹⁾

I. はじめに

本学の在宅看護実習は、「地域療養する人々とその家族を理解し、その人らしい在宅生活の継続に向けた在宅ケアの実際を学ぶ」という実習目的のもと、訪問看護ステーションにおいて2週間の実習を行っている。

学生は訪問看護ステーションの看護師と同行訪問し、在宅看護の実践の現場を学ぶが、個人宅や施設という生活の場への訪問であるため、対象者の了解や訪問人数の考慮などから教員が学生とともに同行訪問することは困難が伴う。そのため教員は、実習記録などから学生の考察したことや学習内容を読み取り、学生への問いかけやカンファレンス、記録へのコメントを通して学習内容をフィードバックし、視野を広げ学習内容を深化させるという指導が必要である。また学生が療養者や家族を生活者として捉え、在宅看護にどのような援助が求められるのか、実習内容を意味づけし言語化できるよう学びを整理し助言する役割を担う(其田ら, 2020)。学生の実習振り返りレポート内容を分析し、実習目標の達成度を評価するとともに今後の在宅看護実習の内容について検討したため、ここに報告する。

II. 在宅看護実習の実習内容

1. 在宅看護実習の実習目標

以下の(1)～(6)の6項目を実習目標とし、それぞれの詳細な行動目標や学習方法について在宅看護実習要項に挙げている。

- (1) 在宅で生活する対象者(療養者とその家族)の健康状態・生活状況を記述できる
- (2) 対象者(療養者とその家族)が望む生活を考慮した看護を計画し実践できる
- (3) 在宅療養に必要な社会資源や、関係機関・関係職種との連携・協力の方法を説明できる
- (4) 在宅ケアにおける訪問看護の果たす役割と責任について説明できる
- (5) 在宅療養や地域での暮らしを包括的に支援するケアシステムについて考えることができる
- (6) 看護者を目指す者として相手を尊重した態度を身に付けることができる

2. 在宅看護実習の進行内容(表1)

在宅看護実習は、実習先である訪問看護ステーションにおいて6日間の臨地実習を行うことを基本としている。その他の4日間は学内実習を行い、学内オリエンテーションや実習報告会などを行い、個々が資料作成のうえ受け持ち事例を中心とした実習内容を発表し、学生間で意見交換を行い各実習グループで学習内容を共有している。

3. 在宅看護実習の実習記録

在宅看護実習において、ICFを用いた在宅看護過程を展開する。学生は受け持ち事例を1事例担当し、情報収集、アセスメント、分析、全体像の把握、看護の課題抽出、看護計画立案、看護計画実施(可能な範囲)または見学、ジェノグラム・エコマップの作成を行う。

1) 朝日大学保健医療学部 看護学科

表1 在宅看護実習の進行内容

	曜日	午前	午後
1 週 目	月	学内実習日 (学内オリエンテーション)	実習施設挨拶 受け持ちケースの情報収集
	火	施設オリエンテーション、情報収集、 同行訪問など	同行訪問、情報収集、ショートカンファ レンス
	水	同行訪問、情報収集、アセスメント	同上
	木	同行訪問、看護計画の作成	同行訪問、中間カンファレンス
	金	学内実習日 (看護計画の作成、その他記録物の作成)	
2 週 目	月	学内実習日 (看護実践の為の準備、その他記録物の作成)	
	火	同行訪問 (同行看護師の指示のもと、 可能な範囲での看護実践)	同左、ショートカンファレンス
	水	同上	同上
	木	同上	同左、最終カンファレンス
	金	学内実習日 報告会 (物品返却など)	個人面接、記録物のまとめ、提出

受け持ち事例以外の同行訪問事例は、別様式の書式に療養者情報や援助内容、観察内容、本人や家族の反応などを記入し、学生の学びや考えたことを記入し、全体を通して学んだことをまとめとして文章化する。

学内最終日にグループメンバー全員で学内報告会を行い、実習終了時間までに「実習振り返りレポート」A4用紙2枚を手書きで記入し、記録様式をすべて提出する。

今回、学習内容を分析する「実習振り返りレポート」のレポート内容は、実習目標全体を通して振り返り学んだことや考えたことについて記入することを事前に説明した。

4. 実習記録の分析方法

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響から臨地実習の受け入れが困難な状況があり、多くの学生が臨地実習の日数減または学内の実習内容へ変更をしたため、前年度までと同様に臨地実習において全6日間の実習を終了した学生3名の2020年11月～12月に提出した「実習振り返りレポート」の文章を分析した。実習施設により、同行訪問事例や学習内容に偏りがあることを考慮し、3名とも同様の実習施設であること、同じ実習指導者と教員が担当した学生のレポートを選定した。学生のレポートの文章内容を、ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) にテキスト入力し、結果を分析した。

5. 倫理的配慮

学生3名の実習施設Aに対し、実習施設が特定されない内容とすること、施設の療養者情報などの個人情報保護を行い内容が特定されないこと、本学の紀要への投稿であることを口頭と文書で説明し同意を得た。また学生3名に対し、一切個人が特定されない情報とすること、成績に一切関係がないこと、本学の紀要への投稿であることを口頭と文書で説明し同意を得た。

Ⅲ. 結果

1. 実習施設Aにおける同行訪問と実習状況の概要

学生3名は実習施設Aにおいて6日間実習を行い、訪問看護師との同行訪問事例は計6件～10件であった。訪問先の療養者は1歳～70歳代の男女である。同行した訪問看護師のケアは、状態観察、点滴、吸引入浴介助、採血、胃瘻管理、気管切開部管理、創部処置、おむつ交換と陰部洗浄、栄養相談、育児相談、排便援助等、学生は同行訪問した訪問事例により見学した援助や学習内容は異なっている。学生3名の受け持ち状況は、2名が異なる週に同じ在宅療養者を受け持ち、もう1名は異なる在宅療養者を受け持ち学習した。学生3名とも

実習期間中は、同じ実習指導者と本学教員が担当し、実習記録の指導や中間カンファレンスと最終カンファレンスで学習内容について助言を受けた。学生3名は在宅看護実習のまとめとして、「実習振り返りレポート」A4用紙各2枚を記入した。この記録内容は、臨地実習6日間と学内実習4日間の学習内容を振り返り、在宅看護実習の実習目標に沿いながら各自の学習内容を最終レポートとしてまとめ提出した。

2. 実習施設Aにおける実習振り返りレポートの分析結果

(1) 学生レポート内容の単語出現頻度によるワードクラウド図(図1)

テキストマイニングツールの分析による単語頻出頻度によるワードクラウドでは、「療養」のワードの頻出頻度が高く、「療養」ワードを中心にして「考える」、「できる」、「生活」、「家族」、「在宅」、「看護」というワードの関連が強く表現された。

(2) 学生レポート内容の単語の出現回数(表2)

テキストマイニングツールの分析による単語の出現回数では、「療養」が43回と多く、「生活」が35回、「家族」が27回、「在宅」23回、「看護」22回と多い順であった。また「必要」、「職種」、「支援」、「援助」、「ケア」が10回以上出現していた。

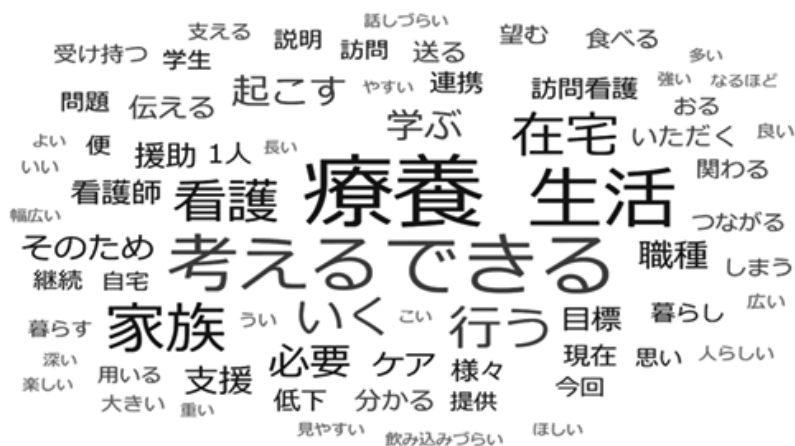


表2 単語の出現回数順 (10回以上)

単語	出現回数
療養	43
生活	35
家族	27
在宅	23
看護	22
必要	16
職種	12
支援	12
援助	10
ケア	10

図1 単語出現頻度によるワードクラウド

(3) 学生レポート内容の共起ネットワーク(図2)

テキストマイニングツール分析により共起ネットワーク図では、「生活」「療養」「家族」の3つの単語の強い繋がりを中心とし、その中で「療養」と「家族」の繋がりがやや強い線で表れている。また「生活」に関連した単語として「できる」「在宅」と「看護」の単語が繋がりに出現している。

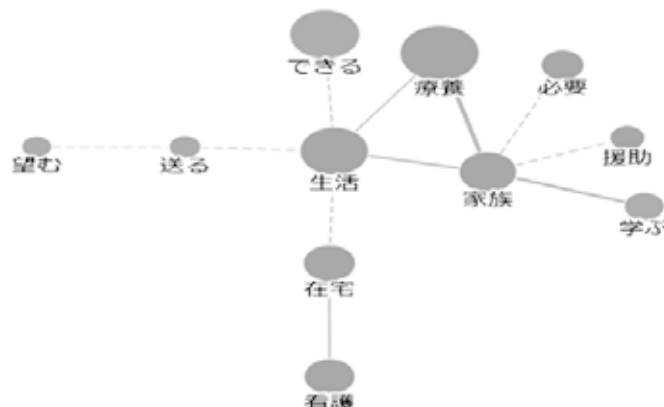


図2 共起ネットワーク

IV. 考察

実習振り返りレポートの内容分析により、学生が「療養」「生活」「家族」という3つの背景を中心にしながら、療養者や家族の「できる」ことに視点を置き、個々の訪問事例の「望む」生活を考えるとともに、訪問看護師の援助内容から在宅看護に必要な援助を学ぶことができたことが明らかとなったと考えられる。このことは、個別性の高い対象理解し、家族背景や個々の事例の状況が持つ強みを見いだす在宅看護の学習として重要であり、山村ら(2015)や大谷ら(2020)による在宅看護実習の学びの分析と重なる学習内容の結果であった。また、本学の実習目標の(1)から(4)までの内容に沿う関連の単語が頻出しており、単語のもつ意味について在宅看護の実践現場で感じ考えることに繋がったと考えられ、実習目標の達成度は高いのではないかと推測される。さらに学生が実習で感じた気づきや実感を言語化し意味付けられるための教員や実習指導者の支援の充実、学内報告会の運営や方法についても検討が必要である(鈴木ら, 2016)。

今後、指定規則の改正の受け「在宅看護論」から「地域・在宅看護論」へ変更されることから、本学の実習目標(5)で挙げている在宅療養や地域での暮らしを包括的に支援するケアシステムについての学習が深められるような実習内容や実習方法の検討が必要であると考えられる。

本研究に関して、開示すべき利益相反状態は存在しない

V. 文献

大谷かがり, 寺本由美子, 小塩泰代, 堀井尚子(2020). 在宅看護における家族看護とはー在宅看護実習の学生の学びを分析してー. 第50回日本看護学会論文集(在宅看護), 87-90.

其田貴美枝, 玉熊和子, 造田亮子, 山上順矢, 一戸とも子(2020). 対象者に寄り添い対象者から学ぶ在宅看護実習の展開. 看護教育, 61(7), 572-579.

鈴木昭子, 前田和子(2016). 在宅看護実習における学びー終了時レポートの分析からー. 茨城キリスト教大学看護学部紀要, 8(1), 29-37.

山村江美子, 田中悠美, 稲垣優子, 酒井昌子(2015). 在宅看護実習における学び. 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 23, 41-51.